

## 153 一粒の麦のたとえ

ヨハネによる福音書 12 : 20~36



### ▶ギリシア人、イエスに会いに来る（ヨハネによる福音書 12 : 20~26）

20 さて、（過越しの）祭りのとき礼拝するためにエルサレムに上って来た人々の中に、何人かのギリシア人がいた。

21 彼らは、ガリラヤの**ベトサイダ**出身のフィリポのもとへ来て、「お願いします（→回復訳：ご主人さま、リビング・バイブル、新改訳：先生、NIV/NKJV : Sir）。イエスにお目にかかりたいのです」と（仲介をしてもらえるように）頼んだ。

→フィリポ Philippe



Philip 「馬を愛する者」（ギリシア語） 漁師／ガリラヤ・ベトサイダ出身／バルトロマイの友人  
フィリポ（ベトサイダ出身）は、イエスが「私についてきなさい」とはっきり命じた最初の弟子である。洗礼者ヨハネが活動していたヨルダン川の近くにいたことから、もとはヨハネの弟子だったのではないかといわれる。フィリポは四福音書の十二使徒のリストすべてに登場するが、その記事はあまり多くなく、「ヨハネによる福音書」に集中（12回登場）している。十二使徒の中で気弱な面もあるが、最も親しみやすい人柄であり、イエスと共に旅をする間は食糧調達係としてよく働いた。伝道者としては、イエスの教えを広めるといふより、人々を直接イエスのもとに導く働きをした。十二使徒の1人バルトロマイ（ナタナエル）もフィリポに伴われてイエスの弟子になった。  
ギリシアやフリギアで布教した後、小アジアで十字架にかけられ、石打ちにされ、殉教した。

### 【考察】ギリシア人たちは、なぜ直接イエスに会えなかったのか

∵ギリシア人は異邦人のため、異邦人の庭までしか行けない。

∵神殿にはユダヤ教の信仰をもった異邦人が礼拝する異邦人の庭と呼ばれる外庭とユダヤ人だけが入れられる庭との間に神殿の四方を囲む「ソレグ」（→「隔ての壁」）と呼ばれる低い大理石の壁があり、そこには「これより中に入る異邦人は、死刑に処す」と記された警告の札が付けられていた。



22 フィリポは行ってアンデレに話し（→∵イエスが過去の経験上、異邦人伝道に消極的であったので、話しやすい同郷のアンデレにまず、内容を話をした）、アンデレとフィリポは行って、イエスに話した。

→アンデレ Andreas

Andrew 「男らしい」（ギリシア語） 漁師／ガリラヤ・ベトサイダ出身／ペトロの弟  
ベトサイダの出身で、兄ペトロと共にガリラヤ湖で漁をしていたときに初めにイエスに声をかけられ、弟子となった。兄のペトロ（シモン）とともに洗礼者ヨハネの弟子だったが、イエスの先駆者とされる洗礼者ヨハネの「イエスは神の子羊だ」という言葉を聞いてイエスに従った。弟子のリストの中でもペトロ、ヤコブ、ヨハネについて4番目にあげられている。イエスと旅しているときは食糧の確保で大いに心を痛めた。同地出身のフィリポとは並記されることが多い。

黒海沿岸で伝道を行い、ローマ総督アイゲアテスの妻を癒し、改宗させた際、総督の怒りを買って、ギリシアのパトラ(Patras)でX字型の十字架で処刑された。その際、死ぬまでの2日間、説教を続けたとされている。アンデレが処刑されたX字型の十字架は「アンデレの十字架（セント・アンドリュー・クロス）」と呼ばれ、スコットランドの国旗（青地に白）やロシア海軍の軍艦旗（白地に青）になっている。



左：スコットランドの国旗/右：ロシア海軍の軍艦旗

23 イエスは（アンデレとフィリポに）こうお答えになった。

「人の子が栄光を受ける時（＝十字架の時）が来た。24 はっきり言うておく。一粒の麦（＝イエス）は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。25 自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で（霊的命を一番にして）自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。26 わたしに仕えようとする者は、わたしに従え。そうすれば、わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる。わたしに仕える者がいれば、父はその人を大切にして（→報いて）くださる。」

【一言】「花燃ゆ」※最終回、杉文（吉田松陰の妹で、後の楯取美和子）のことば（2015.12.13 放送分より）

「どうか、一粒の穀として、次の春の種とれますよう。」

※幕末の動乱から現代日本の創世期、ただ、明日のその先のために－日本の未来に希望をもたらした一人の女性の物語 作：宮村優子

▶父なる神へのイエスの祈り／人の子は上げられる（ヨハネによる福音書 12：27～36）

27「今、わたしは（罪人として十字架につけられようとしており、）心（が）騒ぐ（→心が騒いでいます）。何と言おうか。『父よ、わたしをこの（十字架の）時から救ってください』と言おうか。しかし（→いや、そうではない）、わたしはまさにこの時のために来たのだ。

28a 父よ、御名の栄光を現してください。」

→父なる神へのイエスの祈り

→（回復訳解説）父の御名の栄光を現すとは、御父の神聖な要素を表現させることです。御父の神聖な要素、すなわち永遠の命は、受肉した御子の中にありました。御子の受肉の殻は、死を通して破られ、御父の神聖な要素、永遠の命が、復活の中で解き放され、表現されなければなりません。それは、一粒の麦の命の要素が、その殻が破られることによって解き放され、その開花によって表現されるのと同じです。これが、御子において父なる神の栄光を現すことです。

28bc すると、天から（神の）声が聞こえた。「わたしは既に（イエスのこの世での行い－3年半の公生涯－において、神としての）栄光を現した。（しかし）再び栄光を現そう。」

29 そばにいた群衆は、これを聞いて、「雷が鳴った」と言い、ほかの者たちは「天使がこの人に話しかけたのだ」と言った。

30 イエスは答えて言われた。

「この声が聞こえたのは、わたしのためではなく、あなたがた（群衆）のためだ。」

31 今（→十字架の死⇒埋葬⇒復活⇒昇天⇒大いなる神の栄光の時）こそ、この世が裁かれる時。

今、この世の支配者（であるサタンともいわれる悪魔）が（火の池に投げ込まれ、この世から）追放される。

32 わたしは地上から上げられるとき、（この世の）すべての人を自分のもとへ引き寄せよう（→救おう）。」

→地上から上げられる

イエスは①自らが十字架につけられるとき（ヨハネ 12：33、イザヤ 52：13）と②復活して天で神と共にいるときの両方を指してこの言葉を用いられた。

33 イエスは、御自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、こう言われたのである。

34 すると、群衆は言葉を返した。

「わたしたちは律法によって、メシアは永遠にいつもおられると聞いていました。それなのに、人の子は上げられなければならない、とどうして言われるのですか。その『人の子』とはだれのことですか。」

→これについては旧約聖書（ユダヤ教聖書）に特別な言及はないが、ダビデ王の一族が永遠に支配するという約束のことを指したのであろう（詩編 89：36～38、イザヤ 9：6、ダニエル 7：14）。

メシアはヘブライ語「マシアハ」で油注がれた者の意味。頭に油を塗ることで、その者が特別な職務に選

ばれた者であることを示した（サムエル上 12：3～5）。イエスがメシアならば、なぜ上げられなくてはならないのか、しかも十字架の死によって上げられることになるのか、群衆は理解できなかった。

35 イエスは言われた。

「**光**（→イエス）は、いましばらく、あなたがたの間にある。暗闇に追いつかれないように、光のあるうちに**歩きなさい**（→光を信じなさい）。**暗闇の中を歩く者**（→イエスを拒否し続けている者）は、自分がどこへ行くのか分からない。36 **光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい。**」

イエスはこれらのことを話してから、立ち去って彼らから身を隠された。

→今は「恵みの時」「救いの時」である。

**【参考】エフェソの信徒への手紙 2：14～16**

実に、キリストはわたしたちの平和であります。①二つのもの（→ユダヤ人と異邦人）を一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を（十字架によって）取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、②双方（→ユダヤ人と異邦人）を御自分において一人の新しい人（→教会）に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意（→モーセの律法）を滅ぼされました。

**【参考】新約聖書に登場する「天からの声」** 下記の他、マタイ 17：5、マルコ 9：7、ペトロ II 1：17 がある。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 13 / 聖句等の総数 33250 ]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S マタイによる福音書	3:17 そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。	
S マルコによる福音書	1:11 すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。	
S ルカによる福音書	3:22 聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。	
S ヨハネによる福音書	12:28 父よ、御名の栄光を現してください。」すると、天から声が聞こえた。「わたしは既に栄光を現した。再び栄光を現そう。」	
S 使徒言行録	11:9 すると、『神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない』と、再び天から声が返って来ました。	
S テサロニケの信徒への手紙 I	4:16 すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラツパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、	
S ペトロの手紙 II	1:17 荘厳な栄光の中から、「これはわたしの愛する子。わたしの心に適う者」というような声があって、主イエスは父である神から誉れと栄光をお受けになりました。	
S ペトロの手紙 II	1:18 わたしたちは、聖なる山にイエスといたとき、天から響いてきたこの声を聞いたのです。	
S ヨハネの黙示録	10:4 七つの雷が語ったとき、わたしは書き留めようとした。すると、天から声があって、「七つの雷が語ったことは秘めておけ。それを書き留めてはいけない」と言うのが聞こえた。	
S ヨハネの黙示録	10:8 すると、天から聞こえたあの声が、再びわたしに語りかけて、こう言った。「さあ行って、海と地の上に立っている天使の手にある、開かれた巻物を受け取れ。」	
S ヨハネの黙示録	11:12 二人は、天から大きな声があって、「ここに上って来い」と言うのを聞いた。そして雲に乗って天に上った。彼らの敵もそれを見た。	
S ヨハネの黙示録	14:13 また、わたしは天からこう告げる声を聞いた。「書き記せ。『今から後、主に結ばれて死ぬ人は幸いである』と。」「霊」も言う。「然り。彼らは労苦を解かれて、安らぎを得る。その行いが報われるからである。」	
S ヨハネの黙示録	18:4 わたしはまた、天から別の声がこう言うのを聞いた。「わたしの民よ、彼女から離れ去れ。その罪に加わったり、その災いに巻き込まれたりしないようにせよ。」	